

令和6年度 学校評価 進修小学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の 目標・方針	【学校教育目標】 夢をもち 自ら学ぶ 児童の育成 ～ともに学び合う 進修っ子～ 【目指す学校像】 (1) 家庭や地域とともにある学校 (2) 学ぶ楽しさのある学校 (3) 一人一人に居場所のある学校 (4) 過ごしやすい環境が整った学校
本年度の重点目標	① ふるさとに愛着をもつ子 ② 自ら意欲をもって学ぶ子 ③ 自他ともに大切にできる子 ④ 明るく元気な子

2 自己評価 (達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善)

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	生活指導	進んであいさつする子を育てる。 学校に行くのが楽しいと思える学校づくりをする。	B	・児童の 75.3%、保護者の 70.1%が「自分から挨拶している」と答えている。昨年度と同程度であり、今後も児童会であいさつ運動に取り組み、進んであいさつできる児童を育てていきたい。 ・学校に行くのが楽しい児童が 82.8%と昨年度より 7%上がった。学習面、生活面とも個に応じた支援を教職員で情報共有しながら、保護者の方ともこまめに連携することでさらに、子どもたちが「学校に行くのが楽しい」と思える行事や授業づくりを工夫し、すべての子どもが安心して過ごせる学校づくりに取り組んでいく。
	保護者地域との連携	家庭、地域と連携を図り、家庭、地域の教育力を活用している。 積極的な情報発信に努めている。		・87.1%の児童が地域の人と一緒に学ぶ楽しさを感じ、ふるさとの良さを実感している。ゲストティーチャーとしてたくさん地域、保護者の方が協力的に児童と関わり活動してくださっている。今後も保護者、地域、学校が一体となって地域と共にある学校づくりに取り組み、ふるさとを誇りに思える児童を育てていきたい
教育課程	学習指導	学びに向かう力を高める。	B	・「めあてをもって最後まであきらめずに取り組んでいる」と答えた児童が 81.7%と昨年度より 4.9%上がった。興味のある課題設定をしたり、自分のめあてを持ち、学び方を選んだりしながら学習する授業づくりに引き続き取り組んでいく。
	授業方法の改善	主体的に学び、自分の考えを伝えたり友だちと協働して学べたりするような授業づくりを工夫している。		・「友だちの意見を聞いたり、考えを伝えたりするなど友だちと学ぶことが楽しい」と答えた児童が 87.1%と昨年度より 5.5%上がった。保護者も 95.4%と高い。引き続き、教師が教える授業から子どもが学ぶ授業を意識して授業改善をしていき、高め合える集団作りをめざしていく。
課題教育	特別支援教育	個性を尊重し、お互いの良さを認め合える子を育てる。	A	・「友だちのよさを見つけ、相手の気持ちを考えた行動、言葉遣いができている」と答えた児童が 86%、保護者 95.4%となっている。多様性を認め合えるジェンダー平等教育などにも取り組み、「自己有用感」や「自己存在感」を感じる取り組みを継続していく。

3 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの様子を見ていて、大変落ち着いて楽しく過ごしているのがわかる。学習方法も随分変わってきて、先生たちが一生懸命に関わり、新しいことに挑戦されていることが伝わるので達成状況はすべてAでもいいと感じた。 ・地域学習が増えて学校に行く機会が増えたことで子どもたちと触れ合う楽しみができた。ただ、役などをしていないと踏み込めない雰囲気もあるので誰もが行ってみたいと思える学校づくりを期待している。 ・多様な子どもたちに対応できる体制を作られているので今後も積極的に推進してほしい。

4 次年度の改善の方向性

予測困難な未来社会を生き抜く力をつけるために、児童の自律する力、挑戦する力、人とつながる力を重点的に育成していく。児童が自分で考え行動したり、自分たちで課題を解決したりする力をつけるために、教科担任制や複数担任制に取り組み、児童を多面的に見守り支援していく体制を整えていく。そして、児童に関わる全ての人（保護者、地域、教職員）が笑顔になる学校づくりを推進していく。 引き続き、地域・保護者の方と連携しながら、地域学校協働活動に取り組み、ふるさとを誇りに思える児童を育てていく。 令和7年3月7日 学校名 丹波市立進修小学校 校長名 松田 亜矢
